

A U R I C U L E R

“ 和 紙 と 刺 し 子 ”

2 0 2 2

C O L L E C T I O N

AURICULER/ オリキュレールは、「伝統と現代を繋ぐ medium」を主題に、時を超えて継承されてきた日本の伝統産業とその優れた“素材”と“価値”を見つめ直し、現代に落とし込んだ新たなモノ作りのカタチを模索しています。

「三河木綿」を扱った SANPAKU とのコラボ作品は、多角的な視点から“素材”と“価値”に向き合うことで、その伝統的な素材の性質やシルエットを活かしつつ現代のデザインにアウトプットし、日常にインストールすることで更に作品の付加価値が上がると考えています。

古来、「衣」は人の生活とともにあった最古のメディアムで、防衛、体温調整といった基本的な役割から、地位や身分を表すもの、そして美意識を表現するために様々な技術的・技巧的進化を遂げてきました。

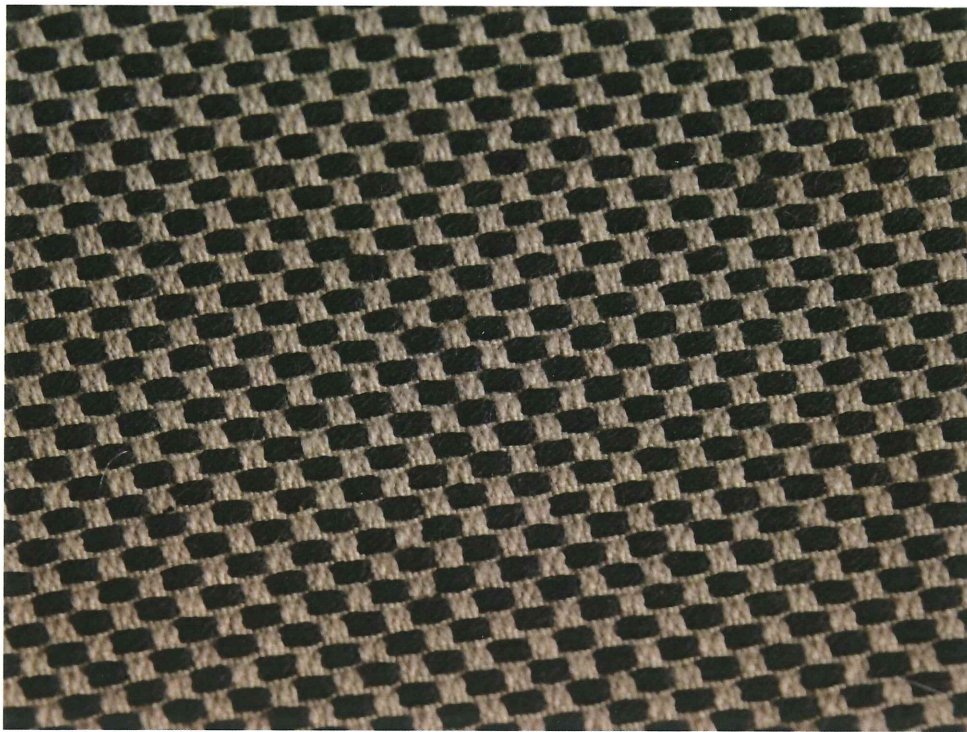
AURICULER では、多様な時代、多様な文化、そして多様な未来を創造してゆく手立てとして「三河木綿」を中心に日本の伝統工芸をメディアムの核とし、価値生成の根源を常に意識しながら「衣」の核心を捉え、カタチにしてゆきます。

W E B



INSTAGRAM





## — 三河木綿 —

木綿は、平安時代初期の延暦18年（西暦799年）、三河湾（現在の西尾市）に綿種を持って漂着した崑崙人（インド人）から初めて我が国に伝わったといわれます。

以来、三河地方で綿の栽培と綿織物が盛んとなり、江戸時代から明治にかけて「三河木綿」のブランド名で岡崎の木綿問屋から江戸はじめ全国各地に出荷されました。

三河木綿には、「白」と「縞」があり、「三河白木綿」は、帆前掛け、半纏、股引、帯芯、足袋底、暖簾などに用いられ、「三河縞」と呼ばれる縞柄は着物や袋物などの三河木綿製品の代表的なデザインとして全国に知れ渡っています。

また布地を補強する為、厚手の三河木綿を使用した「刺し子地」は、柔道、剣道の稽古着などに用いられ、江戸時代から昨今まで消防刺子、火事装束（火消半纏）としても使用されています。

三河木綿は、愛知県の地域産業資源で、耐久性、耐火性、保温性、吸湿性に優れ、肌触りの良い質の高い綿織り物として受け継がれています。



## — 越前和紙 —

岐阜県の「美濃和紙」、高知県の「土佐和紙」と並び、「日本三大和紙」に数えられ、福井越前地方の岡太川流域で作られてきた「越前和紙」。

越前和紙は、日本に紙が伝わったとされる4世紀から5世紀頃には既に漉かれていたことが正倉院の古文書にも記述があり、朝廷や幕府などが発給する「奉書紙」に用いられるなど、越前は、最高品質を誇る紙の産地として、幕府や領主の保護を受けて発展してきました。中でも、「越前奉書紙」は、日本の最高級の和紙の代名詞ともなっています。

越前和紙の特徴は、生成色の優雅な美しさと、高い品質で、種類の豊富さも特徴の一つです。

現代では、名刺、色紙、木版画用紙、壁紙などの日常使いのものから、奉書紙、局紙（紙幣・小切手）など格式の高い紙まで幅広く用いられています。

また昨今では、和紙繊維に抗菌消臭の効果が認められ宇宙滞在用被服の素材にも採用されており、「用紙」の枠にとどまらない高機能素材として幅広い分野のモノづくりを支えています。

# “ 和 紙 と 刺 し 子 ”

AURICULER 2022 COLLECTION “和紙と刺し子”

2022年3月19日（土） - 21日（月） / 午前11時 - 午後8時

  
**masayoshiSuzukigallery**

masayoshi suzuki gallery / マサヨシスズキギャラリー  
〒444-0044 愛知県岡崎市康生通南 3-20 STAGE BLD 2/1F  
TEL : 0564-28-1317 / www.masayoshisuzukigallery.com

- 名鉄名古屋本線「東岡崎駅」北口より徒歩10分
- 名鉄名古屋駅より特急30分 / 豊橋駅より特急25分
- 岡崎I.C.より車で5分 / JR岡崎駅より車で7分

